

# 海外と日本の男女共同参画について

## 国際交流員のみなさんに聞きました！

帯広市の国際交流事業や学校訪問、通訳・翻訳などで活躍されている国際交流員の皆さんに、出身国の男女共同参画の状況や育児の役割分担について日本に来て疑問に感じたことなどお話をうかがいました。



レイインさん  
(アメリカ出身)



アメリカも昔は男女の差がありました。今は少しずつ差がなくなってきました。しかし、実はまだ女性の賃金は男性の77%と少なく、CEO（最高経営責任者）や社長になる女性はほとんどいません。主な理由は出産です。能力があっても、出産を予定している女性は高い地位を希望せず、出産したら仕事を辞めるか2・3ヶ月休むという形が多いです。出産休暇中の給与を出す州は、50州のうち4州だけです。

日本に来て疑問に感じたことは、女性がお茶を出すことです。OL（オフィスレディ）という言葉があるのに、OM（オフィスマン）はないのかなと不思議に思いました。

ナムウォン  
ボンコットさん  
(タイ出身)



タイは、私から見ると、男女平等だと思います。特に職場の面では、女性と男性は

給料の差はなく、平等に働いています。オフィスには男性よりも女性の方が多くいます。必ず男性が働くとは限らないです。事情によっては専業主夫の家庭もあります。

子どもの面倒は祖父母がみてくれますので、出産後すぐに仕事に復帰することができます。田舎に行くと、働かない男性もあり、女性が子育てしながら内職しているところもあつたりします。

成田 カレンさん  
(ブラジル出身)



ブラジルは広い国で、貧富の差が激しいので、階級ごとに少し違う状況になっています。貧しい階級にいくと男女平等とはいえないと思います。しかし大きな企業では賃金の格差や男女の差別はありません。

育児の場面では、ブラジルは一般家庭でもお手伝いさんがいるので、女性の負担は少なくなっています。結婚を理由に仕事を辞める女性はほとんどいません。

ブラジルの大学では女性が6割を占めています。昔は工学部には男性が多かったのですが、最近少しずつ女性の割合が多くなってきました。小中学校の先生などもほとんどが女性です。

日本に来て驚いたことは、女性が結婚か仕事のどちらかを選ばなければいけない現状にあることです。

トウ イシンさん  
(中国出身)



中国にも昔は「男性は理系で女性は文系」という考え方がありましたが、今は女性も建築などを勉強していて、専門職に従事する女性は、今は男性よりも多くなりました。大学生も女性が多く、女性の方が成績がいいという傾向もあります。ただ、都市部と違い、農村部では義務教育を受けている女性が少なく、格差があるのが現状です。

日本に来て驚いたことは、女性の方が育児の責任が重いように見えることです。中国では基本的に子どもに母親も仕事をしていますが、祖父母が育児を手伝ってくれますし、男性も積極的に育児に参加しています。

### インタビューを終えて

やはり日本の男女共同参画は、他国に比べてかなり遅れているのだと感じました。昔ながらの風習をぬりかえようという気持ちに消極的だと思います。